

サギタリウス・チャレンジ チャレンジ部門
企画実施報告書

タイトル	おむすびチャレンジ	
実施日	2023年 6月 1日 (木) ~ 2023年 11月 15日 (水)	
代表者	学生証番号	氏 名
	124779	目片郁光
企画概要	<p>学内の食堂では、毎日長蛇の列ができていたため、お昼休みを取れない学生が多くいることが課題と考え、すぐに提供でき、場所を考えず、手軽に食べることができるおむすびを提供することで課題解決を目指す。</p>	
活動状況	<p>春学期2回、秋学期2回実施し、活動は終了しました。</p> <p>春学期は、SNS アカウントの周知、秋学期に向けての練習という目的で実施を行い、秋学期は、課題解決と並行して、おにぎりアクションでの社会貢献を行いました。</p> <p>結果として、春学期では、SNS アカウントのフォロワー数約 60 人、秋学期のおにぎりアクション投稿数約 40 人。通算おむすび販売数約 200 個。</p>	
考 察	<p>活動前での考えでは、春学期と秋学期 2 回に分けておむすびを販売することで課題を解決が出来ると感じていた。しかし活動後その考えでは解決が難しいと感じた。</p> <p>春学期活動する中で、予想以上の学生が来て、初めての販売であったこともあり、早く提供できるおむすびで、事前準備が原因で長蛇の列を作ってしまった。そこで、秋学期は春学期で見つかった課題を改善し、提供までのマニュアルを作成することで、よりスピーディーに提供する事が出来たが、春学期ほど学生が来なかった。</p> <p>おむすびチャレンジでの活動をしていく中で、春学期と秋学期とでは、授業や単位の関係で、学生がおむすびを購入しに来る、人数が違うことに気づいた。そこで、より効果的に解決をするためには、春学期に向けての事前準備、人数を増やすなど、その時期に、重点的に活動を行うことが大切であると感じた。</p>	
所 感	<p>私が、この活動を通して、一番感じたことは、集団に対する課題解決は自己満足では、だめだということです。今回私たちの活動では、自分たちが思う、早く提供できるおむすびを販売し、この時期に、この方法で、すればこうなって解決していこうという、自分たちの過去の解決に基づいた方法で、課題解決を行っていました。しかし結果としては、学生が多く来る、重要な時期に失敗してしまい、改善した秋学期では、あまり学生が来ませんでした。これは自分たちの理想を学生に押し付け、現実の学生に目を向けなかったことが原因であり、活動前に、学生に対して、現状や問題、理想などを聞く、事前調査を、</p>	

もっとしっかりしていたり、春学期一回目の後に、来てくれた学生などに、意見を聞いたり、議論の場を設けたりするなどすれば、いい解決策が見えていたと思います。

このことから、私は集団に対する課題解決は、自己満足だけではだめであり、学生などヒアリングを行って、一緒に解決していくことが、良いと考えました。